

あけぼの

第20号

平成28年2月16日発行

教委人権教育課

☎229-3253 FAX 229-3332

道は一つではない～子どもの未来を守るために～

何かがうまくいかなかったとき、「私なんて…」と自分に自信をなくしたことはありませんか。

周りの人と自分を比べて「なぜ、自分はこんなにダメなんだろう」と落ち込んだことはありませんか。

「つまづくことで、失敗することで、人は成長するんだよ」とよく言われます。しかし、自身でそうはなかなか思えずに、悩みながら自分を諦めてしまう子どもたちもいます。

そんなとき、周りにいる人が「大丈夫だよ」「一緒に歩こう」と伝えてあげることも、再び歩き出



す勇気につながります。

子どもたちが大人になっていくには、いろいろな道があります。

最初に選んだ道が行き止まりだったり、どこを歩いているのか分からなくなったりしたときには、立ち止まったり、ときには引き返したりすることも必要かもしれません。

大切なのは、5年後、10年後、その先につながる未来が幸せであること。

今回の特集「子どもの自立を支える～未来をあきらめさせないために～」は、疲れて立ち止まっている子どもたちが歩き出さなくなったとき、いつでも一緒に歩いてくれる仲間を紹介します。

子どもの自立をどのように支えるのか、さまざまな視点から考えてみましょう。

市民人権講座を開催しました

昨年11月10日、サンデルタ香良洲で市民人権講座が開催され、UDまちづくりの会代表の木下美佐子さんによる「みんなが住みよいまちづくり～年を重ねて見えてくるもの～」と題した講演がありました。

「人間は誰でも年を取っていくものですが、その中でいかに年を取っていくかが大切です」という話の中で、長寿に欠かせないものとして、運動や栄養といったことのほかに、社会参加が挙げられました。高齢者に欠かせないものとして、「今日すべき用事」と「今日行くべき所」が必要なのだそうです。

高齢者が元気に社会参加できるまちづくりを進めるためには、人が物に合わせるのではなく、物を人に合わせるといった人間中心の考え方、ユニバーサルデザインが必要だということを丁寧に話してくれました。

このユニバーサルデザインとは、大人や子ども、体の不自由な人、お年寄り、妊娠している

人、赤ちゃんを連れた人、外国の人など、全ての人が使いやすくなるように考えてつくることをいいます。

現代社会ではスピード・量・質が優先されがちです。こうした社会の中で生きづらさを感じている人もいます。そのような人に寄り添い、誰も排除しない、誰も排除されない、誰も排除させないことが、みんなが住みよいまちづくりにつながっていくと語ってくれました。

そして、高齢者とは誰もが行く道であることから、私たち一人一人が高齢者の人権について、「自分が同じ立場に置かれたらと考えてみる」「関心を持つこと」「できることから始めてみる」が大切だという話で、講演が締めくくられました。

高齢者に限らず、誰もが住みよい社会にしていくためには、一人一人が尊重されることが、とても大切なことではないでしょうか。

